

フレキソ・樹脂凸版向けCTPの最新機種を発売 ～最大4,800dpiの高品位イメージング技術により、高品質と高生産性を両立～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー(社長：藤澤 恭平)はこのほど、フレキソおよび樹脂凸版印刷向けに、最大出力解像度4,800dpiのイメージング技術を搭載したサーマルCTP装置「PlateRite FX870II (プレートライトエフエックス870 ツー)」を開発。国内をはじめ世界市場に向けて、2009年5月から販売を開始します。

近年のパッケージ印刷業界では、フレキソおよび樹脂凸版印刷における製版設備のデジタル化とCTPの導入により、印刷品質の向上や工程の短縮が図られており、2006年秋に当社が発売した「PlateRite FX870」の登場をきっかけに、国内市場に樹脂凸版印刷向けCTPが普及し始めました。さらに最近では、高品位なワンパス印刷の浸透が始まり、高品質と高生産性を両立できる装置の需要が拡大しています。

今回発売した「PlateRite FX870II」は、このような業界の動向を受け、シール・ラベルなどパッケージ印刷向けの「PlateRite FX870」を発展させ、さらなる高生産、高品質を実現。主にラベル印刷を対象とした、あらゆるナローウェブ印刷の用途に幅広く対応します。新設計の高出力露光ヘッドと、ドラムの回転を安定させるオートバランス機能を搭載し、フレキソ版では1時間当たり4m²*¹、樹脂凸版では6m²*¹という高生産性ととも、高品質な描画を可能にしました。さらに、ラベル印刷用途向けのフレキソCTPとしては世界初*²となる最大出力解像度4,800dpiの実現により、通常の解像度で発生しやすい斜線や曲線のジャギーを大幅に低減し、細線の描画再現性が飛躍的に向上。階調表現も滑らかになり、特にハイライト部の印刷むらを最小限に抑えることができます。また、クランプ機構により印刷版の取り付けを簡略化できるなど、操作性にも優れた装置となっています。

当社は、今回発売した「PlateRite FX870II」にサーマルオフセット版対応をオプションで準備するなど、フレキソおよび樹脂凸版関連製品の充実を図り、高品質・安定化を実現するフレキソ向け特殊網点のラインアップもさらに強化します。これにより、世界市場の幅広いニーズを網羅し、市場におけるシェアのさらなる拡大を図ります。そして、フレキソおよび樹脂凸版印刷業界のリーディングカンパニーを目指し、今後ますます多様化するユーザーニーズに応えていきます。

※1 版材により生産性は異なります。

※2 2009年4月現在(当社調べ)。

* 「PlateRite FX870II」は、5月12日から16日まで中国・北京で開催される印刷機材展「China Print 2009」で実機を展示し、デモンストレーションを行います。また国内では、5月28日から30日まで大阪・南港「インテックス大阪」で開催される「JP2009情報・印刷産業展」でサンプル展示を行います。

PlateRite FX870II

☆ この画像の印刷用データ(解像度300dpi)は、下記URLよりダウンロードできます。
(www.screen.co.jp/press/nr-photo/)



● 本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 メディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー 管理統轄部 企画部：
Tel 075-414-7610 Fax 075-417-2705 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目